

春 分 儀 式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 VE14A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE VERNAL EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春秋分点の前後48時間以内に実施すること。2014年の春分点通過は3月21日(金)午前1時57分(日本標準時)である。儀式内容は、ハシディズムの教義「下降と上昇の浮動」を活用し、春分の祝祭を実施する。

1 概 要

(1) ガドルートとカトヌート

ハシディズムの創始者パール・シエム・トブ(イスラエル・ベン・エリエゼル、c1700-1760)は、人間の意識状態は、高度なアウェアネスを獲得した状態と、低いままの状態の2種類に分かれることを指摘した。人間の肉体的な制約により、いかに達人といえども高度なアウェアネスを長時間維持することはできない。束の間獲得できる高度意識状態を **מוחין דגדלות** (モヒン・ド・ガドルート、拡張意識状態(大きな頭部))と呼び、それ以外の通常の意識状態を **מוחין דקטנות** (モヒン・ド・カトヌート、抑制意識状態(小さな頭部))と言う。⁽¹⁾ 単に **גדלות** (ガドルート)及び **קטנות** (カトヌート)とも言う。本来、ガドルートは「成人、熟成」を、カトヌートは「幼児性」を意味する単語である。

これらの秘教的用語は『ゾーハル』に由来し、その後、アリ・ザル(イサク・ルリア(イツハク・ショロモ・ベン・ルリア・アシュケナージ、1534-1572)がザウィル・アンピン(Z" A)の諸状態の説明に用いたものである。獅子のカバラのなかでは、きわめて難解な神学的議論に用いられている。⁽²⁾ しかし、パール・シエムは新羅万象が二つの状態を移行し続けるとし、「ガドルートとカトヌート」の教えを人間の高さまで引き戻し、特に瞑想状態の詳述に利用した。⁽³⁾ 初期ハシディズムでは、ツァディクは二つの意識状態を常に移行し続ける。つまり、大いなる意識(ガドルート)と小さな意識(カトヌート)、上昇(アリヤー)と下降(イエリダー)の間を流動する。これを **עלייה וירידה** (イエリダー・ツォレク・アリヤー(下降と上昇の浮動))と言う。⁽⁴⁾ 一般的な意味では、世俗利益や、自分の来世の幸福のために祈るのはカトルート状態とされ、創造主に祈りを捧げる喜びに溢れている状態をガドルートと呼ぶ。

(2) ガドルートへの遷移

超絶の達人ならざる凡俗の学徒としては、どうすればガドルートへ意識を遷移させられるのだろうか？

ハシドたちの回答は極めて単純であり、それは祈りによって達成されたとした。ただし、尋常な祈りではない。自己の欲望を捨てた無私の祈り、細部や、部分に拘泥することのない主の巨大な本然に立ち戻る祈りを指すのである。⁽⁵⁾ ここで要求される祈りはアミダーではなく、カヴァナーや、デヴェクースの段階の祈りである。

(1) Aryeh Kaplan, *Meditation and Kabbalah*, York Beach : Weiser, 1982, pp.278-281.

(2) Rav Yehuda Ashlag, "Preface to the Sulam Commentary," in *Kabbalah for the Student*, Tronto : Laitman Kabbalah Publishers, 2008, pp.689-697, 793.

(3) Gershom Scholem, "Devekut, or Communion with God," in *The Messianic Idea in Judaism: And Other Essays on Jewish Spirituality*, New York : Schocken Books, 1971, prefaced 1995, pp.218-222.

(4) Nathaniel Deutsch, *The Maiden of Ludmir : A Jewish Holy Woman and Her World*, Los Angeles : University of California Press, 2003, p.176.

(5) Rabbi Rami M. Shapiro, *A Dream of Zion : American Jews Reflect on Why Israel Matters to Them*, Woodstock : Jewish Lights Publishing, 2005, pp.202f.

しかも、祈りにシャントを導入することが重視された。⁽⁶⁾ 音律は重要な役割を果たしている。ポリッチのラビ・ヒレル（1795-1864）は「歌を愉しみ、理解しない者はハシディズムを真に理解することはない。」と述べた。⁽⁷⁾

一方で、人間の意識状態は、人間の靈魂の状態を意味する。発生学的な視点では、受胎中は人間の指向はNHI（ネツァク、ホド、イエソド）にあり、ネフェシュが生成される。授乳中の赤子はChGTh（ケセド、ゲブラー、ティファレト）に指向し、ルアクが生成される。大人になるとChBD（コクマー、ビナー、ダース）への指向が可能となり、ネシャマーが生成される。⁽⁸⁾

このようなセフィロト・シェル・ハスフィロート（セフィロトの3幅対）を考えるのは、獅子のカバラでは良く行われた。

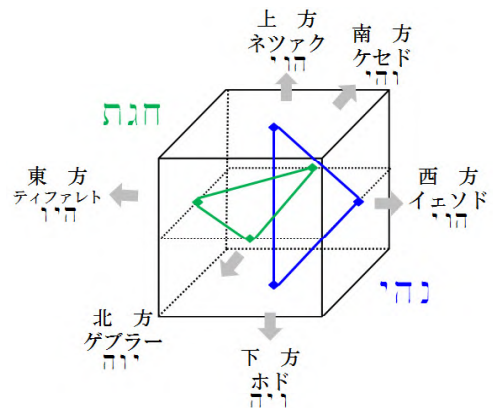
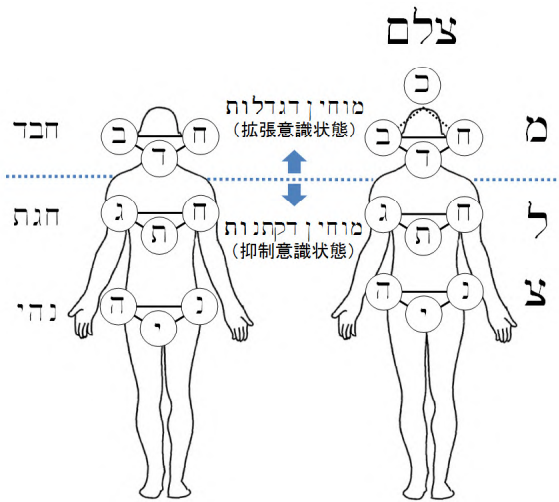
マルクトの10セフィロトにおける人体への投影は右図のとおりである。ここではマイクロソポス以下の照応を論じているので「黄金の夜明け」団の解釈に基づき、峻厳の柱が人体の右側に、慈悲の柱が人体の左側に来る対面姿勢である。

図の左側が発生論的な生成状況を、右側はツェレムの3文字との照応を示している。

最終的にツェレムが形成されるのは、上位のZ"Aのなかである。

ティシュレ月に約1週間祝われる仮庵祭（חג הסוכות カグ・ハ・スコット）では、出エジプト後の荒野で仮小屋（スコット）で過ごしたことを記憶するため、仮庵を作り、儀式、祝祭を行う。儀式では4種の植物（アルバー・ミニム）が用いられる。棗椰子の若葉（ルラヴ）はイエソドを、丸いくえんの実（エトログ）はマルクトを、2本のアラヴァ（柳）はネツァクとホドを、3本のミルトス（ハダス）は、ケセド、ゲブラー、ティファレトを象徴し、仮庵自体は下位7セフィロトを守護するビナーを象徴する。⁽⁹⁾

アリ・ザルは、仮庵の祭の儀式的側面をさらに整理した。かれの利用したマルクトを除く6セフィロトの方位と聖三文字の名前は、右上図のとおりである（『ゾーハルの書』又は『ティクネイ・ゾーハル』とは若干照応が異なる。⁽¹⁰⁾



(3) 畏るべき頭冠

נְזֵלִים דְּנֹרָא (ネゼル・ド・ノーラ、畏るべき頭冠^{とうかん})⁽¹¹⁾ は、セセフィロトの上位にあり

(6) Rabbi Shefa Gold, *The Magic of Hebrew Chant : Healing the Spirit, Transforming the Mind, Deepening Love*, Woodstock : Jewish Light Publishing, 2013, pp.13f.

(7) DovBer Pinson, *Inner Rythms : The Kabbalah of Music*, Northvale : Jason Aronson, 2000, p.129-135.

(8) Raphael Afilalo, *Kabbalah Concepts : Introductory and advanced concepts of Kabbalah*, Kabbalah Editions, 2006, pp.72ff.

(9) David Ariel, *Kabbalah : The Mystic Quest in Judaism*, Lanham : Rowman & Littlefield Publishers, 2006, pp.164f.

(10) Gabriella Samuel, *The Kabbalah Handbook*, London : Penguin Books, 2007, pp.324ff.

(11) 歴史的に見ると王冠を意味する単語は、最初期は聖なる箱の黄金の飾りを意味したゼル、後にネゼル（聖別）、アタラー（花輪）などが使われ、その次にペルシャ語から借用したケテルがある。一般には「聖なる王冠（ネゼル・ハ・コデッシュ）」という。本儀式では頭冠（ネゼル）と王冠（ケテル）を区別した（Elliot R. Wolfson, " The Engenderment of Messianic Polituics, " in *Toward the Millennium*, Leiden : Brill, 1998, p.231.）。

ダースを入口とするChBDの三福対を意味する。そして畏るべき頭冠（ネゼル）の上に至上の王冠（ケテル）が重なる時、KChBDの四幅対が完成する。畏るべき頭冠の儀礼は、サロモ・パール・シェムの著述を参照した。⁽¹²⁾

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR（PC）、すなわち「先導者」の1名である。

PCは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間（Robing Room）において、光の法衣を纏う。

(2) 律法の宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

シナリオ文書を単純化したので可能ならば記憶してもらいたい。記憶できない場合でも黎明視の妨げとなるので、テープの使用は控え目に。

あなたの行動する部分は**緑の文字**で記してある。神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(12) Salomo Baal-Shem, *Qabbalistic Magic : Talismans, Psalms, Amulets, and the Practice of High Ritual*, Rochester : Destiny Books, 2011, pp.222f.

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化させる。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I ∴ O ∴ S ∴の兄弟姉妹たちよ。春分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(אָרײַם סס׳ת'')

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(אָבאָג באַגאַג)

全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」(אָרײַם ת'פּאַ)

全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(אָרײַם סס׳י' אַה)

全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(אָבײַט סעל באַג אַל יאַרב דוּאַל)

全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC：聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命とすべての部分を守護するために。」(אָבאָב באַק קײַטעל סס אײַקאַד יאַד יאַד יאַר וואָס פאַר אַלע זאַכן שווערן)

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。わが天蓋を封じる。」(אָוּב פאַס יאַוּ קײַב יוּ זאַהאַב יאַוּ תײַטײַס)

全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成と律法の宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

P Cは東を向いて宣言する。

「I ∴ O ∴ S ∴ の神殿に四方位（よも）の風を召喚せん。」

神殿の東壁の中央に扉が現れた。

P Cは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

P C：「エロウイイー

（'הָלָא わが力の根元よ。）

ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー

（'כּוּ אֶת הָרוּחַ שֶׁנָּתַתָּ לְךָ 汝が授けし息吹よ。）⁽¹³⁾

テホラー・ヒー

（'הָ טָהוֹרָה そは清浄なり。）

アター・バラーター

（'הָ בָרָא אֶתְּךָ 汝がそを創造せり。）

アター・ヤツアルター

（'הָ יָצַר אֶתְּךָ 汝がそを形成せり。）

アター・ネファクター・ビー

（'כּוּ אֶתְּךָ נִפְחָה אֶתְּךָ 汝はそを我に吹き寄せる。）

ヴェ・アター・メシムラー・プキルビー

（'בְּקִרְבִּי מְשַׁמְרֶת וְאַתָּה מֵאֵל מֵאֵל 又、汝は我がうちにあるそを監視する。）

ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー

（'מִמֶּנִּי לְמַלְאֵךְ אֱלֹהִים 又、汝はいつかそを我より取上げる。）」

全員：「バラフター・ヴェ・ヤツアルター

（'הָ בָרָא אֶתְּךָ יָצַר אֶתְּךָ 創造と形成）」

P Cは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

P C：「ヒー・ネイ・ニー （'נִי הֵנָּה われはここに）

ヒー・ネイ・ニー （'נִי הֵנָּה われはここに）

ヒー・ネイ・アーニー・ヤー （'נִי הֵנָּה הֵנָּה הֵנָּה われはここに、神の息吹の）

アナ・ホウシーアー （'הֵנָּה הֵנָּה הֵנָּה 加護のあらんことを）」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー

（'הֵנָּה הֵנָּה הֵנָּה 息吹の加護あらんこと）」

P Cはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C：「ヨー」（呼気）「ヘー」（吸気）「ペーリー・マー」（無の性質を強く意識する。）

全員：「ヨー」（呼気）「ヘー」（吸気）「ペーリー・マー」（無の性質を強く意識する。）

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。

雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。

その黄色い雲の渦の中心に、灰かな薄暗い陰が生まれる。

その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

これはエロヒムの影だ。

(13) 来る (שׁוּב) の変化形 ('כּוּ) は、「霊が我がうちに入りたり (וְהָיָה כִּי יָבֹא אֵלַי)」(『エゼキエル書』2：2) のように使われる。

PCは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ボー (וְאֵנִי בָּרְאִי וְאֵנִי בָּרְאִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי בָּרְאִי われと名前なきもの)
エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵינוּ אֱלֹהֵינוּ 主の力よ)」

全員：「エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵינוּ אֱלֹהֵינוּ 主の力よ)」

南の壁いっぱいに、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

PCは、祭壇の西に回り、西の方向に天鰲宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ボー (וְאֵנִי בָּרְאִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי בָּרְאִי われと名前なきもの)
ホウシーアナ (אֲנִי אֲנִי אֲנִי われを助けよ)」

全員：「ホウシーアナ (אֲנִי אֲנִי אֲנִי われを助けよ)」

PCはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)
全員：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱいに、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

PCは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ボー (וְאֵנִי בָּרְאִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי בָּרְאִי われと名前なきもの)
エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ)」

全員：「エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ)」

北の壁いっぱいに、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 下降と上昇の浮動

PCは、祭壇の東に回り、西面する。全員が西面する。

PCは両腕を脇に垂して直立し、自分の呼吸に意識を集中する。しかる後、言う。

PC：「モヒン・ド・カトヌートは、ネフェシュを基盤とし、ネツァク、ホド、イエソドの三幅対に置かれたり。」

全員が両腕を脇に垂して直立し、自分の呼吸に意識を集中する。

PCは右手を頭上に伸ばし、天井に向かい第2形態の召喚の六芒星を描く。必然的に六芒星の上向きの三角形の頂点は東を向く。六芒星の最上部でへーを、右下でヴァウを、左下でヨドを、最下部でへーを、左上でヴァウを、右上でヨドを発声する。

PC：「へー・ヴァウ・ヨド われ上方を解放する。」

へー・ヴァウ・ヨド。ネツァクの門は開きたり。」

全員：「へー・ヴァウ・ヨド。ネツァクの門は開きたり。」

PCは右手を祭壇の上に伸ばし、祭壇越しに床面に向かい第2形態の召喚の六芒星を描く。六芒星の上向きの三角形の頂点は西を向く。六芒星の最上部でヴァウを、右下でヨドを、左下でへーを、最下部でヴァウを、左上でヨドを、右上でへーを発声する。

PC：「ヴァウ・ヨド・へー われ下方を解放する。」

ヴァウ・ヨド・へー。ホドの門は開きたり。」

全員：「ヴァウ・ヨド・へー。ホドの門は開きたり。」

PCは、太陽廻りで神殿の西に行き、西面して正面に第2形態の召喚の六芒星を描く。六芒星の上向きの三角形の頂点は天井を向く。六芒星の最上部でヨドを、右下でへーを、左下でヴァウを、最下部でヨドを、左上でへーを、右上でヴァウを発声する。

PC：「ヨド・へー・ヴァウ われ下方を解放する。」

ヨド・へー・ヴァウ。イエソドの門は開きたり。」

全員：「ヨド・へー・ヴァウ。イエソドの門は開きたり。」

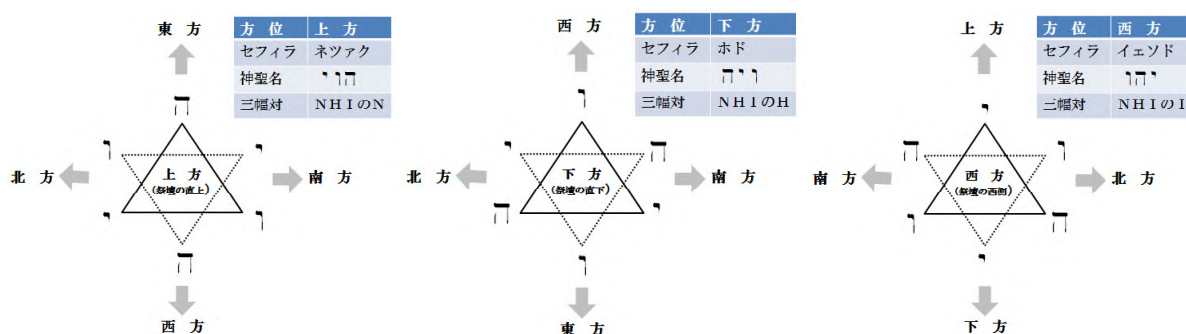
祭壇の東に戻り、西面する。

PC：「ネツァク、ホド、イエソドの『ㄣ』(ナヒー)の三幅対により、ツァディクが生まれる。」

PCは、両手で腹部を押さえる。ヘブル文字ツァディクが、腹部に刻印される。

全員：「『ㄣ』(ナヒー)の三幅対により、ツァディクが生まれる。」

全員が両手で腹部を押さえる。ヘブル文字ツァディクが、腹部に刻印される。



PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは両腕を脇に垂して直立し、自分の呼吸に意識を集中する。しかる後、言う。

PC：「モヒン・ド・カトヌートは、ルアクに上昇し、ケセド、ゲブラー、ティファレトの三幅対に置かれたり。」

全員が両腕を脇に垂して直立し、自分の呼吸に意識を集中する。

PCは太陽廻りで神殿の南に行き、南面して正面に第2形態の召喚の六芒星を描く。六芒星の上向きの三角形の頂点は天井を向く。六芒星の最上部でヴァウを、右下でへーを、左下でヨドを、最下部でヴァウを、左上でへーを、右上でヨドを発声する。

PC：「ヴァウ・へー・ヨド われ南方を解放する。

ヴァウ・へー・ヨド。ケセドの門は開きたり。」

全員：「ヴァウ・へー・ヨド。ケセドの門は開きたり。」

PCは太陽廻りで神殿の北に行き、北面して正面に第2形態の召喚の六芒星を描く。六芒星の上向きの三角形の頂点は天井を向く。六芒星の最上部でヨドを、右下でヴァウを、左下でへーを、最下部でヨドを、左上でヴァウを、右上でへーを発声する。

PC：「ヨド・ヴァウ・へー われ北方を解放する。

ヨド・ヴァウ・へー。ゲブラーの門は開きたり。」

全員：「ヨド・ヴァウ・へー。ゲブラーの門は開きたり。」

PCは、太陽廻りで神殿の東に行き、東面して正面に第2形態の召喚の六芒星を描く。六芒星の上向きの三角形の頂点は天井を向く。六芒星の最上部でへーを、右下でヨドを、左下でヴァウを、最下部でへーを、左上でヨドを、右上でヴァウを発声する。

PC：「へー・ヨド・ヴァウ われ東方を解放する。

へー・ヨド・ヴァウ。ティファレトの門は開きたり。」

全員：「へー・ヨド・ヴァウ。ティファレトの門は開きたり。」

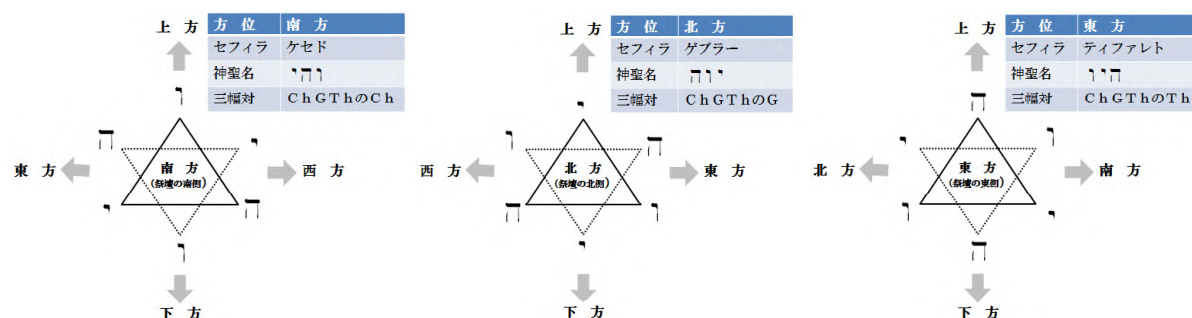
祭壇の西に戻り、東面する。

PC：「ケセド、ゲブラー、ティファレトの𐤒𐤓𐤕 (カガス) の三幅対により、ラメドが生まれる。」

PCは、両手で胸部を押さえる。ヘブル文字ラメドが、胸部に刻印される。

全員：「𐤒𐤓𐤕 (カガス) の三幅対により、ラメドが生まれる。」

全員が両手で胸部を押さえる。ヘブル文字ラメドが、胸部に刻印される。



PCは東を向いたまま、「畏怖すべき頭冠」を被る。

PC：「モヒン・ド・カトヌートは終わりつつある。

仮庵 (かりいお) の六つの方位に、基石たるマルクトを加え、七セフィロトが輝きたり。」

PCは手を頭上に差し伸べ、四つのダイヤモンドを飾る黄金の冠を視覚化する。

PC：「わが頭上に頭冠を差し伸べたり、四つの名前により頭冠を燃え立たせん。

𐤒𐤓𐤕𐤒𐤓𐤕 (アズボガー)

𐤒𐤓𐤕𐤒𐤓𐤕 (アバグデフー)

𐤒𐤓𐤕𐤒𐤓𐤕 (ザフジャー)

𐤒𐤓𐤕𐤒𐤓𐤕 (ゾフツィヤー)

そは 𐤒𐤓𐤕𐤒𐤓𐤕 𐤒𐤓𐤕 (ネゼル・ド・ノーラ) 畏るべき頭冠、

すべての知恵の侯爵たちは召喚されん。

われはモヒン・ド・ガドルートにある。」

六文字の名前を唱える都度、ダイヤモンドがひとつ輝く。最後のダイヤモンドが発光したあと、頭冠はまだ、頭には乗らず手で支えられている。

PC：「コクマー、ビナー、ダースの𐤒𐤕𐤒 (カバド) の三幅対により、メムが生まれる。」

そのとき、PCの額にヘブル文字のメム (𐤌) が輝く。

全員が手を頭上に差し伸べ頭冠を視覚化し、唱える。

全員：「わが頭上に頭冠を差し伸べたり、四つの名前により頭冠を燃え立たせん。

𐤒𐤕𐤒𐤕𐤕𐤕 (アズボガー)

𐤒𐤕𐤕𐤕𐤕𐤕 (アバグデフー)

𐤒𐤕𐤕𐤕𐤕𐤕 (ザフジャー)

𐤒𐤕𐤕𐤕𐤕𐤕 (ゾフツィヤー)

そは 𐤒𐤕𐤕𐤕𐤕𐤕 (ネゼル・ド・ノーラ) 畏るべき頭冠、

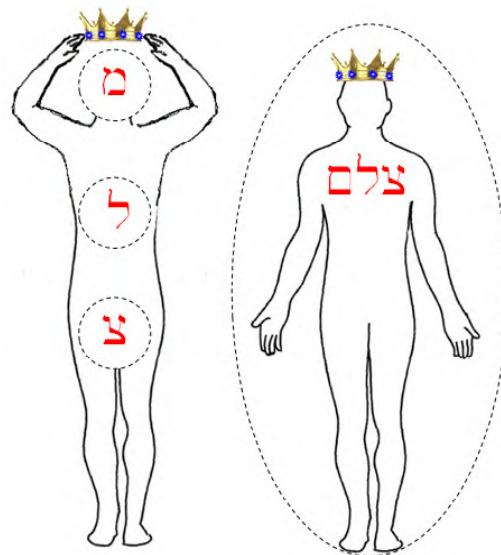
すべての知恵の侯爵たちは召喚されん。

われはモヒン・ド・ガドルートにある。」

六文字の名前を唱える都度、ダイヤモンドがひとつ輝く。最後のダイヤモンドが発光したあと、頭冠はまだ、頭には乗らず手で支えられている。

全員：「𐤒𐤕𐤒 (カバド) の三幅対により、メムが生まれる。」

全員の額にヘブル文字のメム (𐤌) が輝く。



PCは引き続き頭冠を支えたまま聖なる召喚を唱える。

PC：「אתה הו האל הגדול הגבור」

アター・フ・ハ・エル・ハ・ガドル・ハ・ギボール
(汝が上に、大いなる、力強き、畏るべき神あり。)

מלך מלכי המלכים ברוך הו

メレク・マルキ・ハ・メラキム・バルーフ・フ

(王のなかの王のなかの王、かれに祝福あれ。)」

PCは頭冠を下ろし、言う。

PC：「ケテルは他のすべてのネゼルを越える冠のなかの冠なり。」

PCの額のメムが末尾形 (𐤌) に変わると同時に、ツェレム (𐤕𐤕𐤕) の三文字が融合し、王冠から全身を包み込む光輪 (ツェレム) が生まれる。

全員が頭冠を支えたまま聖なる召喚を唱える。

全員：אֲתָהּ הִיא הָאֵל הַגָּדוֹל הַגְּבוֹר

アター・フ・ハ・エル・ハ・ガドル・ハ・ギボール
(汝が上に、大いなる、力強き、畏るべき神あり。)

מֶלֶךְ מַלְכֵי הַמַּלְכִּים בְּרוּךְ הוּא

メレク・マルキ・ハ・メラキム・バルーフ・フ
(王のなかの王のなかの王、かれに祝福あれ。)

全員が頭冠を下ろし、言う。

全員：「ケテルは他のすべてのネゼルを越える冠のなかの冠なり。」

全員の額のメモが末尾形 (□) に変わると同時に、ツェレム (צֶלֶם) の三文字が融合し、王冠から全身を包み込む光輪 (ツェレム) が生まれる。

マルクトの神殿が変容する。香祭壇は、大理石の立方祭壇に変わる。

PCが祭壇の西から近づき東面し、宣言する。

PC：「祈りの声を聞かれない。偉大にして強大なる主よ。

高貴にして慈悲深き君よ、その眼差しは被造物にあまねく下される。

汝が従僕たる祈り手に向き直り、好意を持ち答えたまえ。

全宇宙の主よ、万物の造り主よ、宇宙の一者よ。

わが叫びに答え、天の門を開きたまえ。

汝が膝下にある貴顕の御名を召喚するものなり。」⁽¹⁴⁾

PCが高らかに唄い始める。

PC：「リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(לִי יֵשׁ אַחִיָּה קְבוּץ שְׂדֵי 汝が導きにわが望みを主よ。)

キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー
(לִי יֵשׁ אַחִיָּה קְבוּץ שְׂדֵי 我が望みを主の導かれるままに。)

シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー
(לִי יֵשׁ אַחִיָּה קְבוּץ 主の導きに我が望みを。)」

PC：「サティームー・ヴェー・グー・リアー (סַתִּיָּם וְגֵ' לִי) 」

全員：「隠され開示されたり。」

聖化した四方位の風に取り巻かれ、四界へ密着せる宮殿において、春分の秘儀にあずかる。

PCは、神殿の北に行き、南を向いて言う。

「この場は、光と闇の至聖処なり。

今、頭上に春分の太陽があり、

光は闇と均衡せんとしている。

われは律法の宰相として、

春分の執行を宣言する。」

(14) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, p.113.

8 春分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。

I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)

H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)

V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)

H I H V (へー・ヨド・へー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

PCは、祭壇の東に立ち、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってホルスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。

無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、

そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

9 諸天使の出立

神殿の床が瞬時に溶け落ち、全員がマルクト神殿に降り立った。

PCは祭壇の北に行き、南を向く。

PCは頭上の畏るべき王冠に手をあて、それを脱ぐ動作をする。

PC：「われは王冠のなかの王冠を取り外したり。」

王冠は空中に溶け去り、全身を包む輝くツェレムも消える。

全員が頭上の畏るべき王冠に手をあて、それを脱ぐ動作をする。
全員：「われは王冠のなかの王冠を取り外したり。」
王冠は空中に溶け去り、全身を包む輝くツェレムも消える。

P Cは宣言する。
P C：「律法の宰相の加護に感謝する。
霊の虚の場所に戻りたまえ。」

P Cは再度、祭壇の西に行き、東を向く。
P C：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (יהוהשינ)
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (יהוהשינ)
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

P C：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 地上への帰還

P C：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

P Cは《ヴェールを閉じる》サインを行う。
P C：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

P C：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）光の法衣とともに儀式中に刻印された封印、その他の印は精妙界に去る。

その後、静かに目を開き、立ち上がる。
法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。
普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

**VERBORUM PUBLICA
I :: O :: S ::
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO XIVA**

**IMPRIMI POTEST : I :: O :: S ::
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MMXIV**

春分儀式 V E 1 4 A

Copyrights © All rights reserved I :: O :: S :: 2014

2014年3月16日 I :: O :: S :: 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I :: O :: S ::の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I :: O :: S ::の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。

表紙図版：七枝燭台の形状の神名